

科目名	臨床動作法特論			ナンバリング	858200	授業形態	0
対象学年	1・2	開講時期	後期	科目分類	選択	単位数	2 単位
代表教員	窪田文子〇	担当教員					

授業の概要	本授業では、動作を通して精神機能の変容を目指す動作法について理解し、体験様式に焦点を当てた心理療法の特徴や実践の実際について理解することを目的とする。具体的には、動作療法の理論と実際について理解を深める。						
到達目標	1. 動作法の理論について説明できる。 2. 各動作課題の目的を理解して実施できる。 3. 動作法の適用範囲について説明できる。						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な 予備知識など)	大学院での学びは、基本的には主体的な学びです。また、臨床心理学専攻における学びは実践に収束する学びであることをよく理解し、臨床心理実践との関連を常に意識して、自ら問いを発見しそれを明らかにする姿勢で取り組んでください。						
ディプロマポリシーとの 関連	【人文学研究科 臨床心理専攻(修士課程)のディプロマポリシー】						
		1. 人間におけるさまざまな物事や問題を、臨床心理学の方法論を用いて探求し研究できる。					
	○	2. 臨床心理学の知識を深めるとともに、心理学全般にわたる幅広い教養を持ち、臨床的な枠組みを用いて、実践的に研究することができる。					
	○	3. 心理臨床の場面に対応しうるコミュニケーション能力を持ち、状況に応じたふさわしい自己表現ができる。					
		4. 自ら問いを立て、それに答えていく研究能力を持ち、積極的に活動できる。					
		5. 各自の研究成果を、修士学位論文にまとめ上げることができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
1. 動作法の理論について概ね説明できる。 2. 基本的な動作課題の目的を理解して実施できる。 3. 動作法の適用範囲について概ね説明できる。	1. 動作法の理論について明確に説明できる。 2. 対象に必要な動作課題の目的を理解して実施できる。 3. 動作法の適用範囲について明確に説明できる。

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
定期試験(中間・期末試験)							
小テスト・授業内レポート							
宿題・授業外レポート							
授業態度・授業への参加							
予習レポート	○	○			○		25%
復習レポート	○	○			○		25%
最終レポート	○	○			○		25%
授業中の質問・ディスカッションへの参加		○	○	○			25%

課題、評価のフィードバック	毎回提出を求めるレポートや最終レポートについては、授業中のディスカッションでコメントする。
---------------	---

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第1回	「動作」発見の歴史	「動作」概念が提示された歴史的背景について理解する。	
	第2回	体験治療論	動作法で重視している体験様式について理解する。	
	第3回	動作療法の誕生	動作訓練から動作療法への展開に経過について理解する。	
	第4回	動作療法の準備	動作療法を開始する際のさまざまな準備について理解する。	
	第5回	動作療法の導入	臨床心理面接において動作技法を導入する際の手続きを理解する。	
	第6回	動作療法の進め方	臨床心理面接において動作技法を実施する場合の進め方について理解する。	
	第7回	動作療法の効果	動作療法の効果について理解する。	
	第8回	動作訓練	動作療法の基となった動作訓練について理解する。	
	第9回	健康動作法1	健康の回復、維持、促進を目指した動作療法の実際について理解する。	
	第10回	健康動作法2	健康の回復、維持、促進を目指した動作療法の実際について理解する。	
	第11回	教育動作法	教育活動の中で適用される動作療法について理解する。	
	第12回	スポーツ動作法	スポーツパフォーマンスの改善、向上を目指して用いられる動作療法について理解する。	
	第13回	高齢者動作法	高齢者が抱える様々な問題に対応するために用いられる動作療法について理解する。	
	第14回	災害動作法・危機動作法	災害支援や危機対応に用いられる動作療法について理解する。	
	第15回	まとめ	臨床動作法の特徴と臨床心理面接における役割について理解する。	
	試験	試験は実施しない。		
授業の進め方		授業は 毎回指定された部分を受講生で分担してレポートし、それを基にディスカッションを行う。		
授業外学習の指示		分担した部分を熟読し、ポイントをまとめてレポートを準備すること。他の受講生のレポートには質問や意見を述べ、積極的に取り組むこと。授業後は、内容を振り返り、不明なところは調べるなどして明らかにすること。 （授業外学習時間： 毎週 90 分）		

教科書	教科書を使用しない。
参考書	成瀬悟策(2016)臨床動作法：心理療法、動作訓練、教育、健康、スポーツ、高齢者、災害に活かす動作法 誠信書房
参考URLなど	
その他	